

追悼水木いげる ゲゲゲの人生展

2019 3/23(土) ▶ 6/2(日)

関連イベント

●漫画ワークショップ

「妖怪のイラストを描いてみよう」

新潟市マンガアニメ情報館職員、近藤康宏氏から妖怪イラストの描き方を教わります

日時 5月25日(土)午後1時30分～3時30分

講師 近藤康宏氏(新潟市マンガ・アニメ情報館)

定員 15名(小学生以上)

会場 新潟美術館レクチャールーム

※事前にお申込みください。ワークショップ当日は観覧券をご提示ください

イベントの申込方法について

電話で新潟美術館(0250-25-1300)までお申込みください

申込期間:3月23日(土)～

(先着順、定員になり次第受付を終了します)



●絵本の読み聞かせ

ボランティアスタッフによる妖怪絵本の読み聞かせを行います

日時 5月19日(日)

午前11時～、午後2時～(30分程度)

会場 新潟美術館

図書コーナー(予定)

申込み不要、参加無料

(ただし観覧会の当日観覧券が必要)

●学芸員による ギャラリートーク

学芸員が展示の見どころをご紹介します

日時 3月31日(日)、4月28日(日)、

5月26日(日)

各日午後2時～(30分程度)

会場 新潟美術館 企画展示室内

申込み不要、参加無料

(ただし観覧会の当日観覧券が必要)

新潟美術館のサービス

■あいてマンデー!

月曜日でも開館します。(4月15日、5月27日)

■こどもタイム

会場に音楽が流れます。親子で会話を楽しみながらご鑑賞ください。

第1・3木曜日・日曜日(4月4日、7日、18日、21日、

5月2日、5日、16日、19日、6月2日)

時間 午前10時～午後1時

■託児サービス(無料)

専門スタッフがお子様をお預かりします。

対象 生後6ヶ月～就学前のお子様

(定員3名程度、先着順)

申込方法:各締切日までに電話(0250-25-1300)でお申込みください。

■鑑賞のための託児サービス

第2・4の木曜日・土曜日(3月23日、4月11日、

13日、25日、27日、5月9日、11日、23日、25日)

時間 午前10時～12時

申込締切:利用の3日前まで

■イベント参加のための託児サービス

3月31日(日)、4月28日(日)、5月26日(日)

時間 イベント開始30分前～終了30分後

申込締切:利用の7日前まで

展覧会のご案内

同時開催

新潟美術館コレクション展 I 春・うららら

3月23日(土)～6月2日(日)

次回展覧会

光と遊ぶ超体感型ミュージアム 帰ってきた!魔法の美術館

6月15日(土)～9月1日(日)



©水木プロダクション

【JR】●JR古津駅から徒歩約25分/JR矢代田駅から徒歩約35分。

●JR新津駅からタクシー約15分/JR矢代田駅からタクシー約5分。

【お車】●新潟方面から、国道49号線を国道403号線加茂・新津方面(新潟駅から約20km、約45分)。

●新津方面から、国道49号線を国道403号線加茂・新津方面(新潟駅から約20km、約45分)。

●JR新津駅東口バス停から、秋葉区バス「新津駅西口行」に乗り約25分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩約5分。もしくは新潟交通バス「矢代田線白根・瀧東行」に乗り約15分、「新潟美術館入口」で下車、徒歩約5分。

●JR矢代田駅前バス停から、秋葉区バス「新津駅東口行」に乗り約10分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩約5分。もしくは新潟交通バス「新津駅行」に乗り約5分、「新潟美術館入口」で下車、徒歩約5分。

NAM 新潟市新津美術館 NIITSU ART MUSEUM

〒956-0846 新潟県新潟市秋葉区蒲ヶ沢109番地1(花と道のあるさと公園内、新潟県立植物園と隣り) TEL. 0250-25-1300

【HP】<http://www.city.niigata.lg.jp/nam/> 【Facebook】<http://www.facebook.com/niitsuartmuseum/>

【Twitter】<http://twitter.com/niitsuartmuseum>



2019 3/23(土) ▶ 6/2(日)

NAM 新潟市新津美術館

開館時間 午前10時～午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで) 休館日/月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館。4月15日、5月27日は開館)

観覧料 一般:1,100円、大学・高校生:500円、中学生以下無料

※有料20名以上は団体料金で2割引 ※新潟県立植物園および新潟市鉄道資料館の入館券、SLばんぶつクーポンを持参の方は2割引

※障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料(手帳をご提示ください)

前売券/一般:900円 発売期間/2019年1月18日(金)から3月22日(金)まで

前売券取扱所/セブンイレブン、新潟伊勢丹、トップラベル新潟(Dekky401内)、文信堂呉服店(長岡駅CoCoLo内)、インフォメーションセンターえん(メディアシップ1F)、シネ・ウィンド、新潟県立万代島美術館のミュージアムショップ、新潟市農業生活協同組合、新潟市美術館、新潟市新津美術館 ※NIC新潟日報販売店でもお取り寄せできます

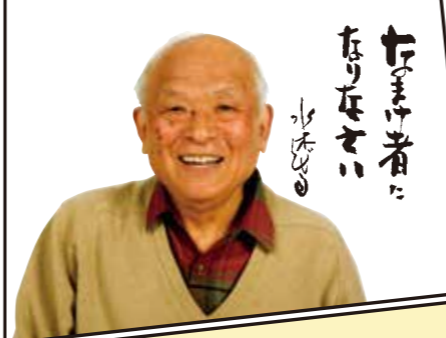
●主催:ゲゲゲの人生新潟実行委員会、新潟市新津美術館、新潟日報社、UX新潟テレビ21、朝日新聞社 ●後援:毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、ケーブルテレビNCV、エフエムラジオ新潟、FM PORT79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ほほほラジオ ●企画協力:水木プロダクション ●協賛:ライブアートブックス ●協力:テクノネット、クロスステック



徹底的に水木しげるの魅力に迫る、回顧展の決定版！

追悼水木しげる ゲゲゲの人生展

2015年11月30日、93歳で「あの世」へと旅立った水木しげる。「ゲゲゲの鬼太郎」「悪魔くん」「河童の三平」など、数多くのヒット作を生み出した漫画家としてだけでなく、作品を通じて妖怪文化を広めた妖怪研究者としても高く評価されました。本展では、水木プロダクションの全面的な協力のもと、人間・水木しげるが遺したものを徹底的に振り返ります。少年期の習作、戦地で描いたスケッチ、貸本時代からの貴重な漫画や妖怪画の原稿など、卓越した画力とメッセージ性がうかがえる作品の数々に加え、エッセイ原稿や妖怪・精霊像コレクション、私物など合計約390点を展示します。



第1章 (少年時代) 境港の天才少年画家

1922年(大正11年)、武良家の次男として産声を上げた水木しげる。自然豊かな鳥取県・境港で、自由奔放に育ちました。幼少期の水木は、近所に住んでいた「のんのんばあ」から妖怪や死後の世界について話を語り聞かされ、目に見えないことに興味を持つようになりました。本章では、水木本人がのちに「国宝」と書いたメモを貼り付けた箱入りのヘソの緒、子どものころからの収集癖がわかる地図や新聞題字のスクラップ帳、才能あふれる少年時代の自画像や油彩画、絵本などを通じて、幼少期から少年期までの水木の姿を振り返ります。



●「のんのんばあとおれ」2006年

●「思ひ」1936年



第2章 (従軍時代) 地獄と天国を見た水木二等兵

1943年(昭和18年)、水木しげるは太平洋戦争に召集され、パプア・ニューギニアの激戦地に送られます。出征前の苦悩が読み取れる手記原稿、戦地に持参した英和辞典、終戦直後の南洋で現地人や自然を描いたスケッチ、自身の戦争体験を重ねて描いた戦記漫画などを通じて、水木が経験した戦争の悲惨さを伝えるとともに、激戦地でも自然や現地人との触れ合いを大切にしていた水木の生き方にも触れます。



●「軍装の兄と」1989年

第3章 (貧乏時代) 貧乏神との闘い

九死に一生を得て復員した水木しげるは、片腕を失ったものの、絵描きへの情熱の炎を絶やすことはありませんでした。境港から神戸、東京へ居を移し、紙芝居作家から貸本漫画家となりますが、原稿料はごくわずか。食うや食わずの生活からはなかなか抜け出せませんでした。戦後に描いたどこか空虚さを感じるスケッチや、後の「ゲゲゲの鬼太郎」の原作となった貸本漫画「墓場鬼太郎」など貧乏生活の中で必死に描いた数々の貸本漫画原稿を展示します。水木夫妻が新婚当初暮らしていた居間を再現したコーナーには、実際に夫婦で作ったプラモデルや当時使っていた背広なども展示します。



貧乏時代の居間再現コーナー

第5章 (妖怪研究者)

妖怪に取り憑かれて

売れっ子作家となり多忙を極めた水木しげるは、50歳を超えた頃から意識的に仕事を減らし、かねてより興味を持っていた妖怪の研究に没頭し始めました。本章では、息をのむほど緻密に描かれた妖怪画の魅力を紹介するほか、水木が世界中で集めた妖怪・精霊像コレクションの一部を、自宅に設けた妖怪ギャラリーを再現して展示します。



●一反木綿 1991年【4月21日(日)まで展示】



●かしゃどろ 1992年【4月23日(火)から展示】



●「雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎」妖怪怪屏絵 1985年



●「三大スター夢の競演 妖怪総進撃」1985年

第4章 (多忙時代) 福の神来たる!!

水木しげるの漫画家人生の中で大きな転機となったのが、1965年(昭和40年)、「テレビくん」での講談社児童まんが賞の受賞です。本章では代表的な水木漫画の原画に加え、当時水木が使っていた日記帳やスクラップブックも見る事ができます。さらに、水木しげるが名作を生み出した書斎を会場内に再現し、プロジェクターを使用した映像演出で彩ります。



●「悪魔くん」単行本カバーイラスト 1981年



●「河童の三平」連載第3回屏絵 1969年

エピローグ 水木しげるは永遠に

ここでは、人間・水木しげるのプライベートな側面に迫ります。「理想の死に方」と題したエッセイの生原稿、50年以上にわたり水木を支え続けた「ゲゲゲの女房」こと布枝夫人へのインタビュー映像や、約50人の各界著名人からの追悼メッセージを通じて、水木が遺したものを、我々に伝えたかったことは何だったのかを探ります。



提供：朝日新聞社

※一部作品の展示替えがあります。(展示期間を特に記していない作品は、全期間展示いたします。)

本展開催にあわせて開店する
特設ショップです。
ゲゲゲの百貨店
ここでしか買えない
オリジナルグッズが
大集合!!

ご来店
お待ち
しています



展覧会公式図録
2,300円



名言クッキー 1,296円



手染め手ぬぐい
(全4種)各1,620円



リングノート
なまけ者になりなさい
1,296円 ※他1種



冷酒グラス
972円

※価格は全て税込です。
※特設ショップのみの
入館も可能です。
※売り切れの際はご容赦ください。

記念撮影コーナー

写真右上のコマ部分に入ると
センサーが反応し、左上のコマ
部分に水木さんの名言とイラスト
がランダムに表示されます。

©水木プロダクション